

「葛飾柴又の文化的景観」ニュース

文化的景観を保存するための整備計画策定にあたり、 個別ヒアリングを実施しました！

現在、区では「葛飾柴又の文化的景観」の保存・活用をどのように進めるかを整備計画として今年中に策定するべく検討を行っています。

計画策定にあたり、重要文化的景観の選定を受けている柴又地域住民が柴又という地域に対して、過去、現在、将来にどのような思いを抱いているのか今年の3月に意識調査を行いました。調査の仕方は、質問を記した調査票を柴又自治会、旧家・農家、柴又神明会、柴又中央会、柴又親商会及び関係者へ配布（76通）し、区職員と委託業者が調査票を直接回収（66通）するとともに、ヒアリングを行い、調査票へ記録しました。

調査項目の「Q柴又の歴史や場所でどのようなところが好きですか」には、圧倒的に「帝釈天と参道エリア」「江戸川エリア」との回答が多く出されました。「江戸川エリア」とは、江戸川や河川敷、矢切の渡し等も含み、江戸川土手から見た眺望も好まれていることが分かりました。上記以外の場所として、「八幡神社」「桜並木」「水神様」「山本亭」という回答もありました。

また、「Q風景や雰囲気が変わったところがありますか」には、「柴又駅前（周辺）」と「田畑（池、空地含む）が減って、宅地化（マンション、戸建て建物）した」という回答が多く出されました。

「Q文化的景観に関するご意見」については、「PR不足（日本を代表する景観地である重要文化的景観に選定されたのに、そのイメージはまだ浸透していないので、説明会やイベントを行ってほしい。）」や「助成制度・軽減処置等（文化的景観（改修・耐震等）に関わる助成制度の整備、固定資産税、法人税、事業所税などの軽減処置、届出等の周知を行ってほしい。）」と言った意見、開発に対する規制を求める方と規制を求めない方の賛否の意見や、公衆トイレ等の便益施設の設置、後継者問題等に関するご意見がありました。

柴又の素晴らしい景観を守り、後世へ継承して行くためには、行政の取り組みだけでなく、柴又にお住まいの方、柴又で商売や農業をされている方の協力が不可欠です。

地元の皆様の意見を計画へ反映させられるよう、今回の調査の分析を進め、今後ワークショップやアンケートを実施しながら、検討を進めてまいります。

※次号の「葛飾柴又の文化的景観」ニュースは9月下旬の発行を予定しています。



江戸川から望む柴又のまちなみ

文化的景観とは何でしょう？

伊藤 毅 (いとう・たけし 東京大学名誉教授)

2018年2月、葛飾柴又が東京都ではじめての国の重要文化的景観に選定されましたが、そもそも「文化的景観」って何でしょう？

日本には明治期から「史跡」や「名勝」などの言葉がありましたが、文化的景観という語は、ヨーロッパ発のcultural landscapeを翻訳した言葉ですので、一言でぴったりとくる説明が難しいのです。葛飾区では、文化的景観を「風景の国宝」と表現しています。このキャッチコピーはよくできていますが、わたくしはこれに「かけがえのない日常風景」という



伊藤毅 東京大学名誉教授

言葉を足したいと思います。文化的景観とは結局のところ、「地域で長年培われた懐かしい日常の風景と生活を大切にしよう」ということに尽きるだろうと考えています。

このことは一見やさしそうで、実は難しいことです。開発圧力の強い都市部では、懐かしい風景は都市開発によって一変しますし、現今の気候変動による災害やコロナ禍で、ふだん当たり前前と思っていた日常が突然、「非日常」に変わってしまいます。慣れ親しんだ日常の風景や生活は、失われてはじめて、それがかけがえのないものであったことを思い知らされます。日常を保持することは思いのほか大変な営みなのです。

山田洋次監督が「男はつらいよ」の舞台として柴又を発見したのは、東京からこうした懐かしい風景がどんどん消えてゆく、1960年代末のことでした。今からみると、山田監督の視線は文化的景観を先取りしたものと言ってよく、柴又の文化的景観の第一歩はすでにこの時点で踏み出されていました。柴又には帝釈天題経寺はもとより賑やかな参道、江戸川の雄大な風景、微高地や低地に広がる、農村や耕地を継承した街区割りや道路・水路、旧家や緑地のたたずまい、どれ一つとっても不可欠の要素ばかりです。

文化的景観制度が目指すところは、過去の風景を大切にしながら、未来に向けての地域のあり方を模索することにあります。そのために次のようなステップを踏むのがよいと考えます。①柴又ルール：長年この地域で培われてきたルールの再発見、②柴又スタイル：過去のルールの中から、現在柴又にとってふさわしい独自のスタイルの抽出、③柴又モデル：未来に向けて継承・発展させるための柴又モデルを創出する。この①～③は過去・現在・未来という時間に対応しています。

そしてその主体は住民のみなさまにあることは言うまでもありません。

およそ半世紀を経たいま、柴又はようやく文化的景観の第二歩目を踏み出そうとしています。

ぜひみなさまの積極的なご参加をお待ちしております。



旧家の生垣

柴又ならではの参道のまちなみと商い

石川宏太（いしかわ・こうた 柴又神明会会長）

私が柴又の「風景」や「まちなみ」について意識を始めたのは、映画『男はつらいよ』の撮影が始まったことがきっかけでした。

映画が放映されると多くの方が柴又を訪れてくださるようになりました。私は柴又を都心に比べると単線の電車が走っている「田舎なところ」と感じ、少し劣等感を持っていました。

しかし、柴又を訪れた人は、映画そのままの昔ながらのまちなみの残る魅力的な場所であると感じてくれているようです。昔ながらのまちなみが

変わらずにあり続けていることが多くの人を魅了し、他所にはない柴又ならではのかけがえのないものであるということに気づかされ、自分たちのまちを誇りに思うようになりました。

では、実際に参道のまちなみは昔と比べて全く変わっていないのかというとそうではありません。昭和から平成にかけてまちなみの変化は少なからずありました。建物の修繕や参道の整備などが行われてきましたが、急激な変化ではなく緩やかに行われてきました。各々の店がそれまでの柴又に合った改修をしてきていたため、参道のまちなみとしての骨格や雰囲気は変化しませんでした。それが多くの方に「昔ながらの参道の景色が残っている」と感じていただける要素ではないかと思えます。

うまくいっていることだけではありません。参道のまちなみに大きな影響を及ぼしかねない事態もありました。昭和から平成にかけて参道脇にマンションの建設が計画されたのです。柴又のまちなみによって多くの方が訪れるのに、計画どおりマンションが建設されれば柴又のまちなみが壊れてしまうと危機感を募らせ、まちづくりについて強く意識するようになりました。その危機感は、参道だけでなく周辺住民にも共有され、帝釈天題経寺の先代のご住職が中心になってNPO法人柴又まちなみ協議が設立されることになりました。

参道は、「まちなみ」とともに「商いの風景」も柴又ならではの魅力だと思っています。映画の撮影が始まると柴又は元々信仰の場所として多くの参詣客が訪れる場所から、映画のロケ地として多くの観光客が訪れる観光地へと変わっていきます。映画で人気のある時は、他所の観光地の観光センターと同じ様に食事もできて、お土産も買えるような商いをする傾向の店舗が増えて、昔ながらの商いの様子が変化していきました。

そのような商売の仕方は、多くの観光客のニーズに応えられる状態ではありましたが、一方で映画が撮られなくなった後、このままで良いのかと思うようになりました。このような状態が続けば個人のお店の魅力が少なくなってしまう、リピーターが減ることにも繋がるのではないかと危惧したのです。どこの観光地にもあるような総合的な商売を行う店舗ではなく、柴又の原点に立ち返って「一店一品」の在り方が柴又には合っているのではないかと考えました。



石川宏太 柴又神明会会長



参道の様子

（裏面に続く）

(前面から続く) 柴又の参道店舗の原点でもある「一店一品」の商いの方法を目指す自然とそれぞれのお店が出す商品のグレードを磨き上げることに繋がり、それが魅力的な参道店舗の形成に繋がっていったのではないかと思います。

観光地として、参道をはじめとする佇まいを大切に、美味しい名物、接客などおもてなしの気持ちを大切にすることが、観光に訪れた人たちが「柴又にまた来たい」とリピーターになってもらうことになると思います。そのようなことを柴又のまちづくりで目指すべきではないかと思っています。

今に継承されているこのようなまちなみや生業の在り方があったからこそ、柴又は日本を代表する景観地として国重要文化的景観「葛飾柴又の文化的景観」の選定を受けたのだと思います。これからも日本を代表する景観地である魅力的な柴又のまちなみを継承していくため、地域と行政が一丸となって考えていきたいと思っています。

文化的景観を支えるもの

文化的景観には「重要な構成要素」と呼ばれるものがあります。言葉では分かりにくいですが、建築物や土地など、そこで暮らす人々の営みによって形作られたものを指します。

「葛飾柴又の文化的景観」にも河川や用水路跡、旧道や建築物など様々なものが「重要な構成要素」として特定されています。これらは柴又の歴史や文化を表すもので、一つ一つが集まって文化的景観を構成しています。

これを後世に伝えていくためには地域の皆さんの力が何よりも重要です。



江戸川と金町浄水場

ご注意ください

「葛飾柴又の文化的景観」の選定範囲内では、工事を行う際には届け出等が必要となる場合があります。

- 柴又まちなみ景観ガイドライン
 - ・ 帝釈天境内の景観、江戸川堤、柴又公園等（高台）からの眺望、参道から帝釈天への通景に関わる内容
- 葛飾区景観地区条例等
 - ・ 柴又地域景観地区内で建築物や工作物の新築、新設、外観の変更等を行う場合
- 重要文化的景観に係る選定及び届出等に関する規則
 - ・ 「葛飾柴又の文化的景観」の重要な構成要素の工事を行う場合

詳しくは下記の間合わせ先までご連絡ください。

このチラシは、郷土と天文の博物館ウェブサイトでも公開しています。ウェブサイトでは、過去の発行号や、掲載しきれない情報なども掲載しております。インターネットの検索画面で検索していただくか、QRコードからもご覧いただけます。



柴又 文化的景観

検索

【このチラシに関するお問い合わせ】

葛飾区郷土と天文の博物館（文化的景観担当）

〒125-0063 葛飾区白鳥3-25-1

TEL 03-3838-1101

FAX 03-5680-0849

郷土と天文の博物館ウェブサイト

(<http://www.museum.city.katsushika.lg.jp>)